

2021年10月期
決算説明資料

株式会社オービス

JASDAQ（スタンダード）：7827

2022年1月27日

ORVIS CORPORATION



PART 1

会社概要


ORVIS CORPORATION

当社は、木材、ハウス・エコ、太陽光発電売電、ライフクリエイト、不動産の5つの事業を基盤にビジネスを展開しております。

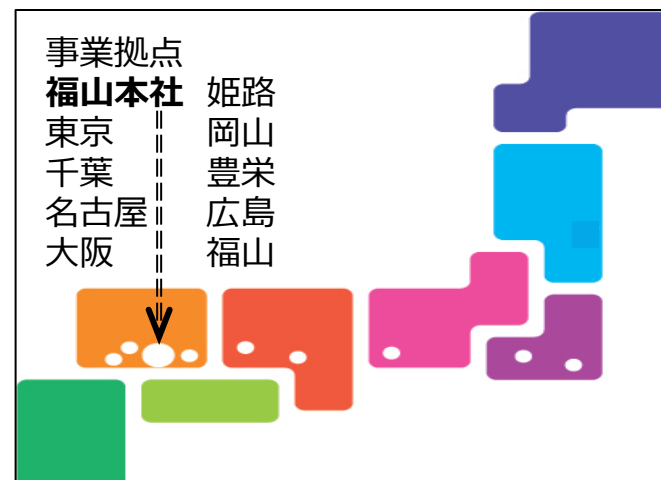
特に主力の木材事業では、梱包用木材の製材及び販売において、国内最大手の評価を頂いております。

会社名	株式会社オービス (ORVIS CORPORATION)
設立	1959年11月
代表取締役	中浜 勇治 (なかはま ゆうじ)
資本金	6億9,192万円
従業員数	191名 (2021年10月末現在)
売上高	94億円 (2021年10月期末)
事業内容	梱包用材等の製造、販売、プレハブハウスの製造、販売、仮設建物等のリース、一般建築及び太陽光発電システムの請負、自然エネルギー等による発電事業、フィットネスクラブ及びゴルフ場の運営、不動産の賃貸及び売買
本社	〒729-0104 広島県福山市松永町六丁目10番1号
連結子会社	該当なし

社名の由来



オービス (ORVIS) とは、ラテン語で「創設者・出発点」という意味を持つ「origao」と「パワー・効力」という意味の「vis」を組み合わせた造語です。
みなぎる活力で未来を創造していきたいという企業テーマを象徴しております



顧客満足 社員満足

「お客様が満足して使用できるものを生産・提供することにより社会に貢献し、それにより社員の生活の向上を図り、株主の皆様へ利益を還元していく」という意味をあらわしております。

1959年11月	(有)中浜材木店を設立	2002年08月	木材運搬船「グリーンホープ」 (最大積載量35,000トン) 完成、 航海開始 (2014年05月売却)
1962年05月	広島県世羅郡世羅西町 (現世羅町) に 製材工場を建設	2002年11月	中須ゴルフ倶楽部の営業譲渡を受け、 営業開始
1968年03月	ニュージーランド松の製材工場建設 同時にプレハブ部材の生産開始	2003年05月	広島県福山市に賃貸マンションを取得し、 不動産賃貸開始
1971年06月	広島県福山市に製材工場移転 同時にプレハブハウスの完成品を販売開始	2006年09月	ジャスダック証券取引所に上場 (現東京証券取引所JASDAQ市場)
1974年09月	(有)中浜材木店を組織変更し、 中浜木材(株)を設立	2008年08月	木材事業姫路工場稼働開始 (2014年11月閉鎖)
1987年12月	広島市西区に賃貸ビルを建設し、 不動産賃貸開始	2010年02月	太陽光発電システムの施工・販売の開始
1989年04月	カラオケハウスの製造・販売開始	2015年11月	フィットネスクラブ「スポパル」オープン
1992年04月	(株)オービスに商号変更	2016年01月	カラオケ事業から撤退
2000年12月	パナマにTUI MARITIME S.A.を設立 (2014年09月解散)	2016年04月	広島県福山市松永町へ本社を移転
		2016年05月	(株)パルを吸収合併
		2018年06月	木材事業福山工場稼働開始



当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、積極的な取り組みを通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

さらなる飛躍をめざして



梱包用材の国内製材最大手として業界を牽引するとともに、常に創意工夫追求する“挑戦者”であり続け、木材資源の安定供給に努めてまいります。

【主な取り組み】

- ・持続可能な天然資源の利用に向けた、本業を通じた森林資源の活用
- ・災害時、緊急時における支援活動のため、災害時の仮設住宅建設、コロナ禍における専用診療所の建設

社員満足のために



既存の常識にとらわれない人材を育成するため、社員の皆さんが安心して夢・目標を実現できる、快適な職場環境の創造に注力してまいります。

【主な取り組み】

- ・各研修、資格取得支援による人材育成の強化
- ・リモートワークの推進、残業過多の是正などの働き方改革の実践
- ・メンタルヘルス対策も含めた健康経営の推進（ひろしま企業健康宣言の実施）



豊かな地球を子どもたちへ



豊かでかけがえのない地球を、私たちの子どもたちの将来に届けるために、事業を通じた環境保全に繋がる活動に取り組んでまいります。

【主な取組み】

- ・温室効果ガス排出削減に向けた木材事業における国産材である杉の利用率向上
- ・ハウス・エコ事業（太陽光発電システム）による再生可能エネルギーの利用促進

地域社会の一員として



日頃よりお世話になっている地域の皆さまへの感謝を胸に、福山の発展に繋がる様々な活動を通じて、持続可能な地域社会創生に尽力してまいります。

【主な取組み】

- ・自社工場周辺の清掃活動による地域美化推進
- ・地元学生の工場見学や高校生への就業体験受入
- ・地元産材の利用

SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。持続可能な社会をつくるために、世界が抱える問題を17の目標と169のターゲットに整理したもの（2015年9月に国連で採択）。2030年までに、政府、企業、地域社会のあらゆる人が、SDGsを実現するための役割を担っている。





PART2

2021年10月期
業績の概要

ORVIS CORPORATION

2021年10月期の業績・・・要約貸借対照表（B/S）

- ◆ 資産の部・・・減価償却の実施による固定資産の減少（主に木材事業福山工場の機械及び装置）
- ◆ 負債の部・・・木材事業の売上増に伴う仕入の増加により短期借入金が増加、約定弁済及び一部繰り上げ返済により長期借入金が増加
- ◆ 純資産の部・・・当期純利益の計上により株主資本が増加 （単位：百万円）

摘要		2020年10月期 通期実績	2021年10月期 通期実績	前期比 （%）
資産の部	流動資産	5,954	6,141	103.1
	固定資産	8,272	7,629	92.2
	うち有形固定資産	8,065	7,455	92.4
資産合計		14,226	13,771	96.8
負債の部	流動負債	3,970	4,422	111.4
	固定負債	6,527	5,544	84.9
	負債合計	10,498	9,966	94.9
純資産の部	株主資本	3,722	3,788	101.8
	評価・換算差額等	5	15	270.7
	純資産合計	3,728	3,804	102.0
負債・純資産合計		14,226	13,771	96.8

2021年10月期の業績・・・要約損益計算書（P/L）

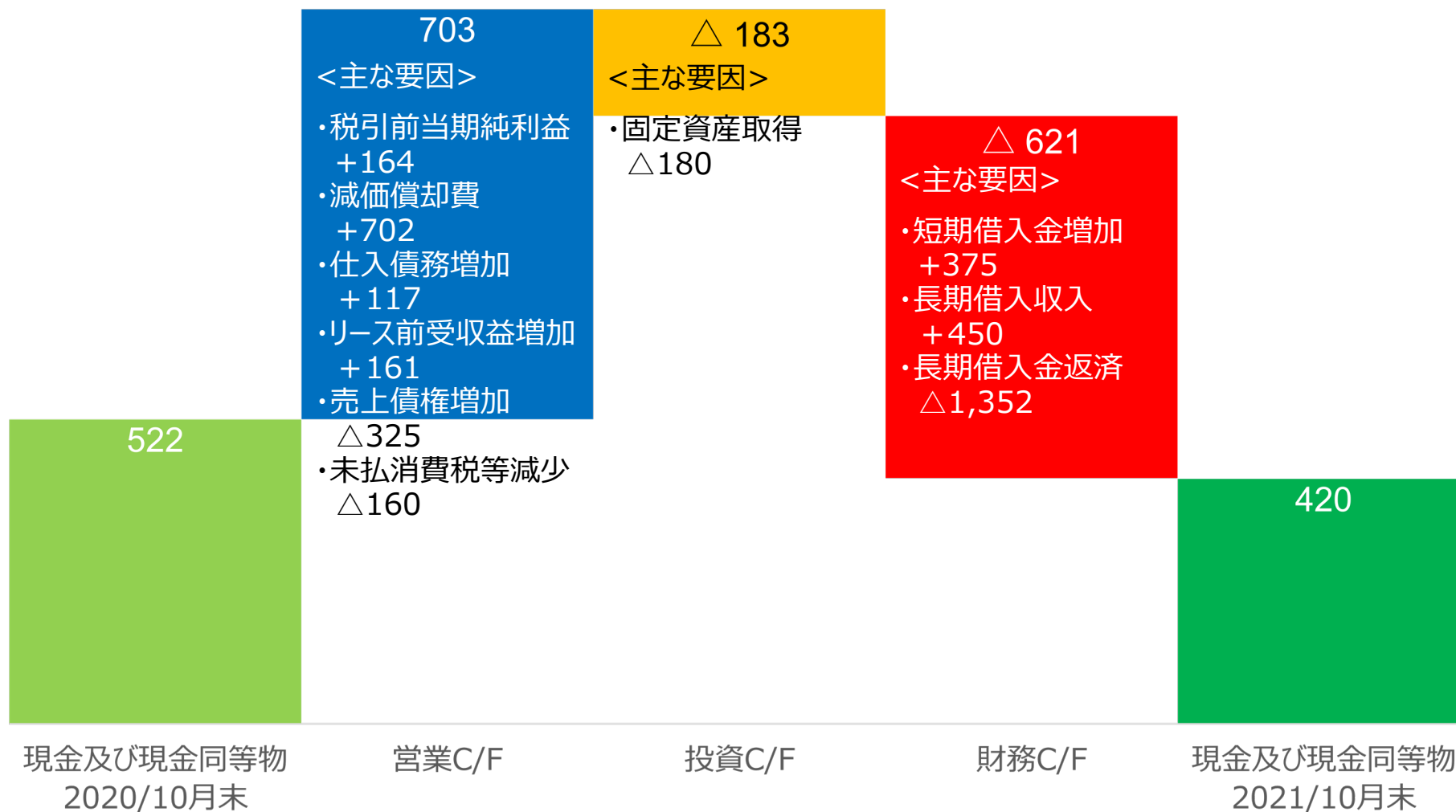
- ◆ 売上高・・・木材事業では、建材向け新規顧客の開拓により需要が増加、ハウス・エコ事業では新型コロナウイルス感染症拡大の影響による案件の中止・延期もあり減収となる。
- ◆ 営業利益・・・木材事業では製商品の販売が堅調に推移し、ウッドショックによる原木価格の上昇分に対する価格転嫁が順調に進んだものの、ハウス・エコ事業の売上高減少の影響を吸収しきれず減益となる。
- ◆ 当期純利益・・・フィットネスクラブの減損の影響もあり減益となる。

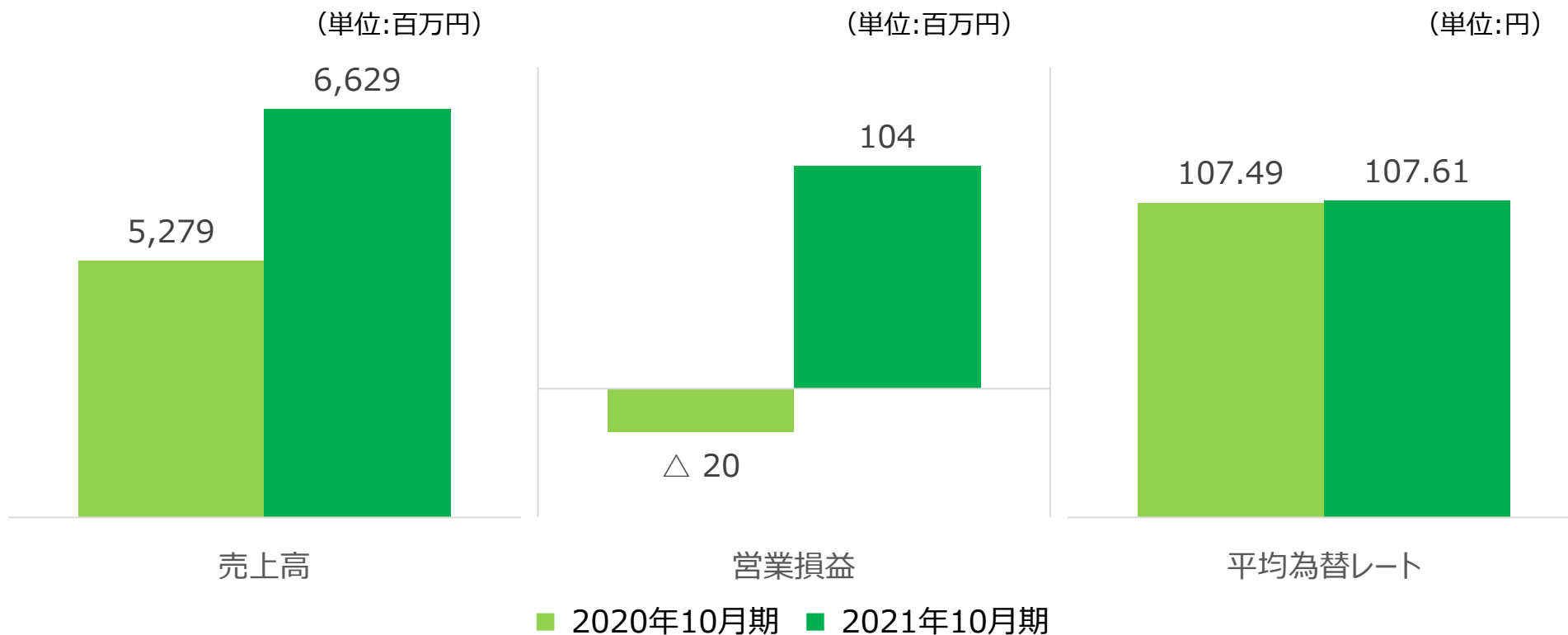
（単位：百万円）

摘要	2020年10月期 通期実績	2021年10月期 通期実績	前期比 (%)	2021年10月期 当初業績予想
売上高	9,022	9,425	104.5	9,423
売上総利益	1,532	1,511	98.6	1,633
販売費及び一般管理費	1,205	1,281	106.3	1,294
営業利益	326	229	70.2	338
経常利益	271	238	87.7	331
当期純利益	194	93	48.2	236
1株当たり当期純利益	111円91銭	53円73銭	—	136円01銭

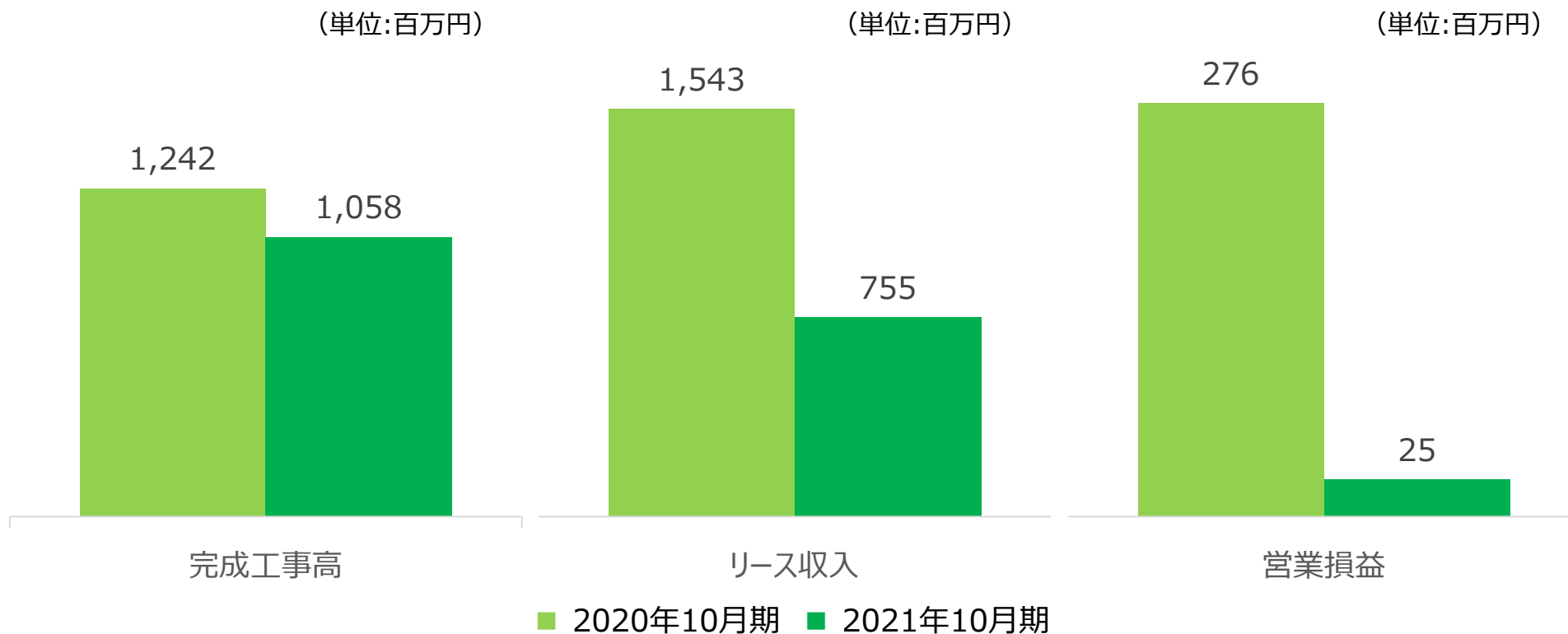
2021年10月期の業績・・・要約キャッシュ・フロー計算書（C/F）

（単位：百万円）





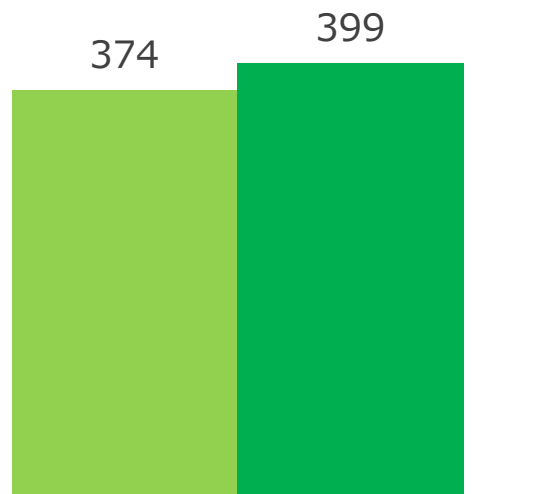
- ◆ 売上高は、主力の輸出用梱包用材の受注環境は引き続き低迷したものの、「脱・梱包用材」として国産杉背板を利用した米国向けフェンス材に加え、CLT材や建築用ラミナ材向けの供給を開始したことにより、製品出荷量は前期比19.2%増加（NZ松製品4.3%減、国産杉製品52.4%増）し、大幅な増収となる。
- ◆ 営業損益は、原木消化量が前期比17.0%増加し、ウッドショックによる原木価格の上昇分に対する価格転嫁が進んだことにより、営業黒字化となる。



- ◆ 完成工事高は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による経済活動の抑制期間が長期間続いたことから、受注競争が激化し、大型物件の受注が伸長しなかったため減収となる。
- ◆ リース収入は、官公庁向けの大型案件などが新型コロナウイルス感染症拡大により延期や中止となったため減収となる。
- ◆ 営業損益は、売上高の減少に加え、コロナ禍における工事案件の減少により受注競争が激化し、粗利率が低下したことにより減益となる。

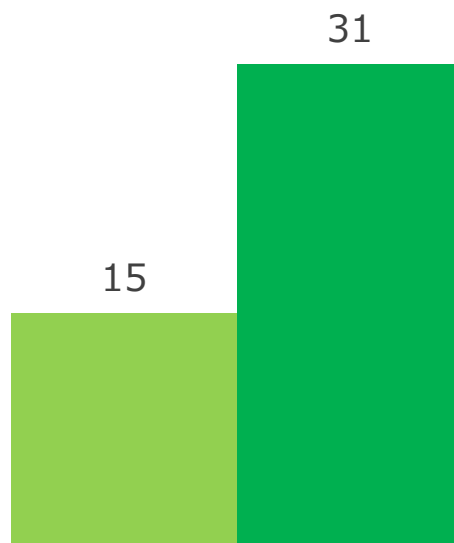
2021年10月期の業績・・・ライフクリエイイト事業

(単位:百万円)



売上高

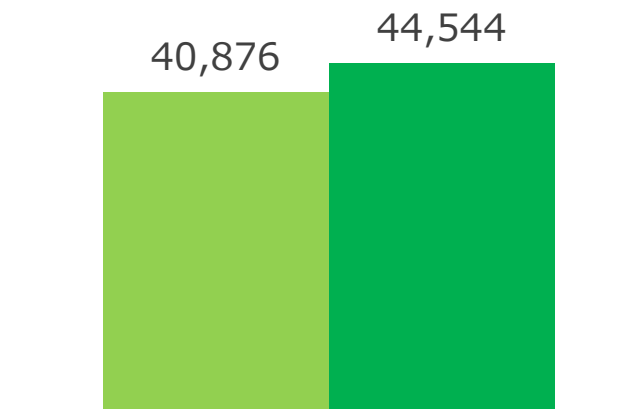
(単位:百万円)



営業損益

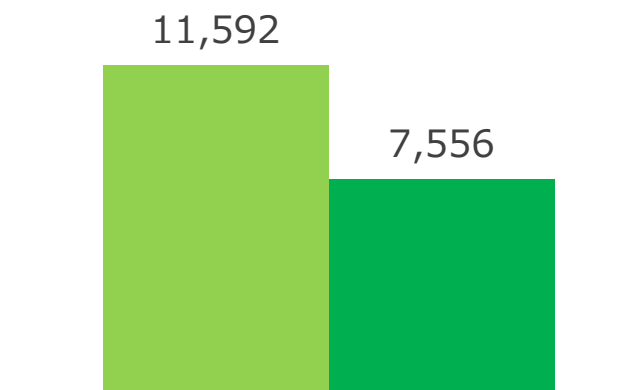
■ 2020年10月期 ■ 2021年10月期

(単位:名)



ゴルフ場来場者数

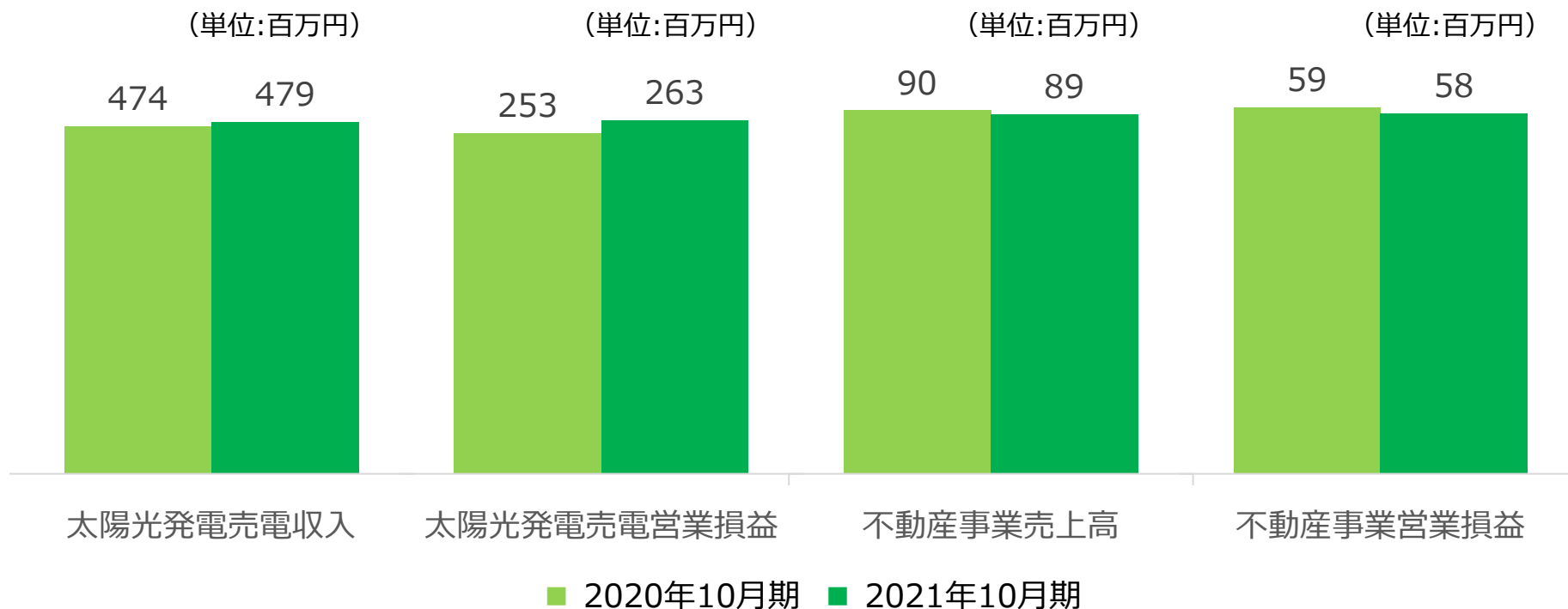
(単位:名)



フィットネスクラブ会員数 (月別累計)

- ◆ ゴルフ場部門は外出自粛や企業コンペの減少など、厳しい状況が続いたものの、ソーシャルディスタンスがとられるスポーツとしての認知度の高まりを受け、来場者数が増加し増収となる。
- ◆ フィットネス部門は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会員数の減少傾向に歯止めがかかっておらず減収となる。

2021年10月期の業績・・・太陽光発電売電事業・不動産事業



- ◆ 太陽光発電売電収入は、2020年12月に広島県北広島町太陽光発電所（0.6MW）が稼働を開始したことにより増収となる。
- ◆ 不動産事業売上高は、賃貸マンションの定期的な保守メンテナンス及び住宅設備機器の更新を行うことで入居率及び定着率の向上に努め、ほぼ横ばいの売上高、営業利益の計上となる。



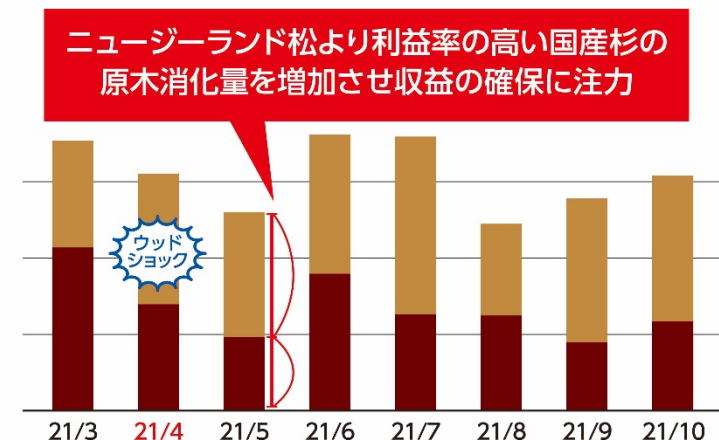
PART3

市場環境
今後の取組み

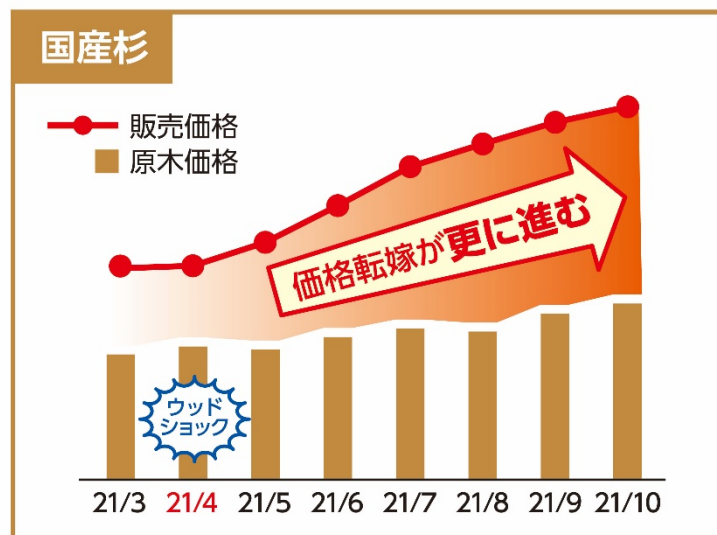
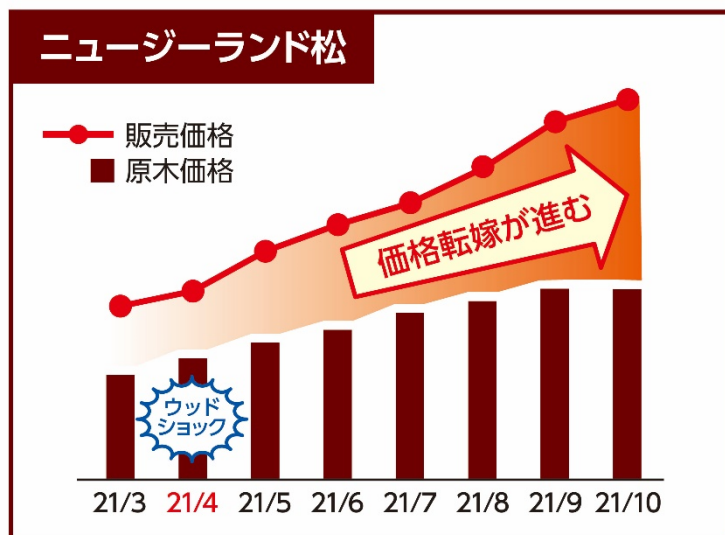
ORVIS CORPORATION

- ◆ 原材料価格の上昇については、販売価格への転嫁を柔軟かつ迅速に対応。
- ◆ ハイブリット工場の強みを最大限生かし、利益率の高い樹種（現時点では国産杉材）への生産比率引上げ。
- ◆ 安定的な原材料確保のため、国産杉の超大径木（直径75cm以上）丸太を購入（中四国地方からの陸送比率を上げる）。

■ ニュージーランド松の原木消化量 ■ 国産杉の原木消化量



ニュージーランド松と国産杉の販売価格と原木価格の推移



上記はイメージ図であり、実際の価格・消化量につきましては公表いたしていません。

◆「脱・梱包用材」として取り組んだ新たなマーケット（CLT材、ラミナ材、米国向けフェンス材）を開拓。

◆新たなマーケットへの出荷量は全体の約2割を占めるまでに成長。



輸出用梱包用材・・・工作機械やプラント設備等の重くて固いものを梱包するための材料



パレット用材・・・荷物の保管、輸送のために使用される「すのこ」のような台に使用する材料



電線ドラム用材・・・電線を巻いている大きな糸巻きのような形のドラムに使用する材料



土木建設仮設用材・・・建設現場の土止め板に使用される材料



CLT材・・・建築の構造材等の材料（板を繊維方向が直交となるように積層接着する）



ラミナ材・・・建築の構造材等の材料（板を繊維方向が平行となるように積層接着する）



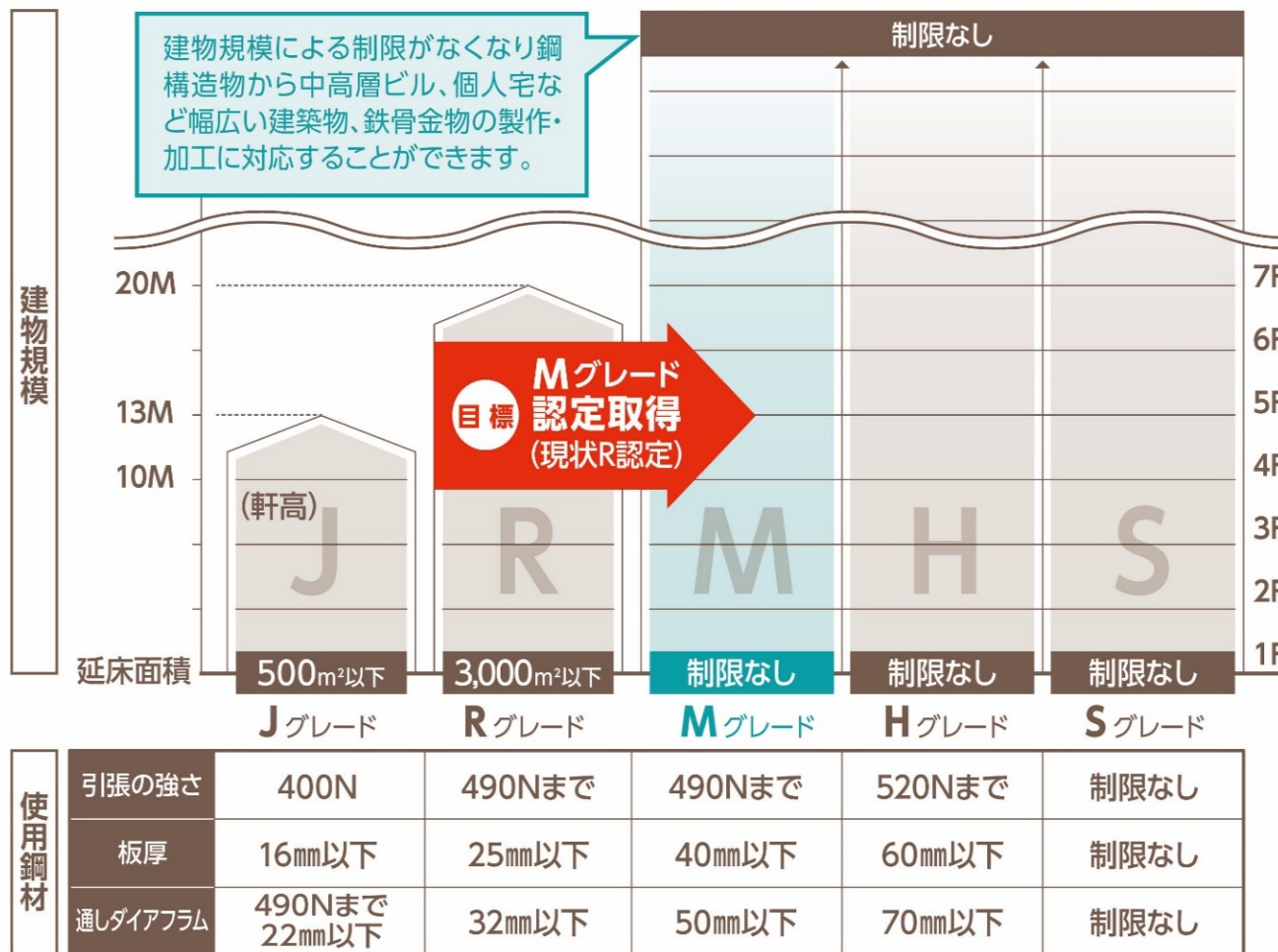
米国向けフェンス材・・・米国向け住宅資材の材料

◆好不調の二極化が進んだ場合でも、好調を維持する業種・業界に営業活動を強化。

- ◆ 顧客満足となる施工を実施することで施主からの紹介案件の増加、新規・既存顧客に対し施工実績カタログの配付、施工現場の案内等を実施することにより重量鉄骨造、システム建築、改修工事の受注獲得を目指す。
- ◆ 上記受注増のため建築士、施工管理士等の資格取得推進、有資格者・営業人員の新規採用による管理力と営業力を強化。
- ◆ カーボンニュートラルに向けて、自家消費の太陽光発電案件の獲得のため、エコ営業所（太陽光発電施工部署）と各ハウス営業所との連携を強化する。
- ◆ 2022年10月期の目標としていた鉄骨製作Mグレード（現状はRグレード）の資格取得について、新型コロナウイルス感染症拡大により、必要な資格試験や研修の中止・順延により計画に遅れが生じており、2023年10月期の資格取得を目指す。

上記施策の実施により年間売上高30億円超を目指す

- ◆ 2023年10月期にMグレード（現状はRグレード）の資格を取得することで、他社との差別化による営業力強化と鉄骨内製化による原価圧縮により収益向上を図る。



◆ ゴルフ場部門（年間来場者数目標46,500名）

コロナ禍でも感染リスクの低い屋外スポーツとして認知されたことで、若者や女性層のゴルフ人口は増加傾向にあり、ゴルフ場来場者数は全国的に好調を維持。

- Web予約機能強化により一人予約需要の集客強化を図る。
- 女性向け料金や飲食メニュー、女性向けコンペ開催、若年層支援プラン、マナー教室やデビューラウンド支援等を提供することにより集客強化を図る。

◆ フィットネス部門（月別累計会員数目標8,300名）

会員様に安心してご利用いただける環境を第一に考え、新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底を図っておりますが、感染症拡大不安による入会者の減少や退会・休会、利用自粛等により引き続き厳しい事業環境が続いている。

- 既存会員による紹介キャンペーン実施やWeb検索型広告強化などの施策によりコロナ収束後の会員を獲得し、イベントの定期開催による退会防止を図る。
- 感染防止対策を徹底したうえで、パーソナルトレーニング実施に注力し月会費以外の売上増加を図る。



PART4

2022年10月期
業績予想

ORVIS CORPORATION

(単位：百万円)

摘要	2021年10月期 通期実績	百分比	2022年10月期 通期業績予想	百分比	対前期比
売上高	9,425	100.0%	11,266	100.0%	119.5%
売上総利益	1,511	16.0%	1,759	15.6%	116.4%
販売費及び一般管理費	1,281	13.6%	1,347	12.0%	105.1%
営業利益	229	2.4%	412	3.7%	179.7%
経常利益	238	2.5%	399	3.5%	167.6%
当期純利益	93	1.0%	264	2.3%	282.7%
1株当たり当期純利益	53円73銭	—	151円29銭	—	—
減価償却費計上額	702	—	690	—	—

2022年10月期業績予想・・・通期業績予想の要旨

部門名	売上高	前期比	営業損益	前期比
木材事業	7,244百万円	109.3%	242百万円	231.5%
ハウス・エコ事業	3,035百万円	166.2%	124百万円	478.6%
太陽光発電売電事業	474百万円	98.8%	262百万円	99.6%
ライフクリエイト事業	425百万円	106.5%	33百万円	106.2%
不動産事業	88百万円	98.3%	52百万円	89.9%
全社（共通）	—	—	△303百万円	+48百万円
合計	11,266百万円	119.5%	412百万円	179.7%

- ◆ 木材事業部は、販路拡大による売上高の増加、原材料コストの上昇分を販売価格に転嫁、工場稼働率の向上により収益の大幅な改善を見込む。
- ◆ ハウス・エコ事業は、最悪期を脱し、コロナ禍前の水準まで引合いが回復、前期に無かった大型物件の受注獲得を見込む。
- ◆ ライフクリエイト事業は、フィットネス部門はコロナウイルス感染症拡大により引き続き低迷するものの、ゴルフ場部門は、来場者数が前期比4.4%増加する見込み。

2022年10月期業績予想・・・第2四半期累計期間

(単位：百万円)

摘要	2021年10月期 第2四半期実績	百分比	2022年10月期 第2四半期 業績予想	百分比	対前年 同期比
売上高	4,485	100.0%	5,692	100.0%	126.9%
売上総利益	715	16.0%	859	15.1%	120.0%
販売費及び一般管理費	637	14.2%	674	11.8%	105.7%
営業利益	78	1.7%	184	3.2%	237.0%
経常利益	104	2.3%	196	3.4%	187.4%
四半期純利益	△6	—	131	2.3%	—
1株当たり四半期純利益	△3円87銭	—	75円04銭	—	—
減価償却費	349	—	341	—	—

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要課題と認識しており、将来の事業計画、設備投資及び経営安定化のための内部留保に努めるとともに、業績に応じた適正な利益配分を考慮しつつ、安定的な配当を継続して実施していくことを基本的な方針としております。

摘要	中間配当 (円)	期末配当 (円)	年間配当 (円)	当期純利益 (百万円)	配当性向 (%)
2016年10月期	0.00	15.00	15.00	523	5.0%
2017年10月期	個別決算へ移行 0.00	15.00	15.00	278	9.3%
2018年10月期	0.00	20.00	20.00	696	5.0%
2019年10月期	0.00	20.00	20.00	393	8.8%
2020年10月期	0.00	20.00	20.00	194	17.9%
2021年10月期	0.00	20.00	20.00	93	37.2%
2022年10月期 (予想)	0.00	30.00	30.00	264	19.8%

主力の木材事業において継続して黒字を確保するとともに、繰越欠損金の解消が見込まれる第64期（2023年10月期）に具体的な配当性向の目標値を定めたいと考えております。



PART5

中期経営計画

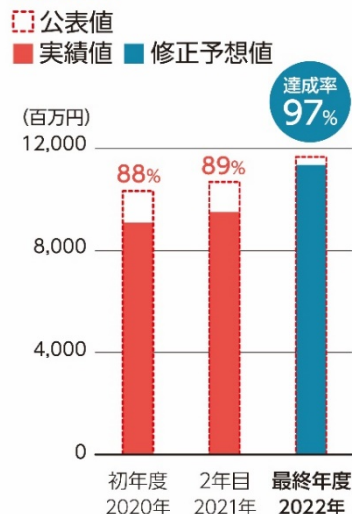
ORVIS CORPORATION

2020～
2022年
中期経営
計画

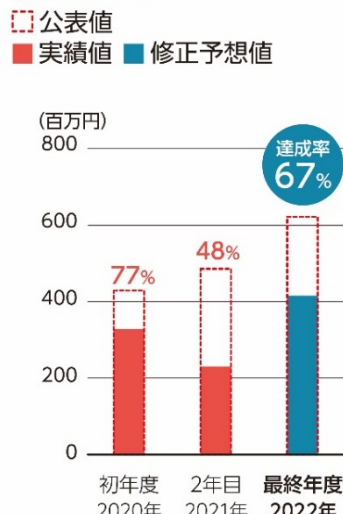
「チャレンジ110」



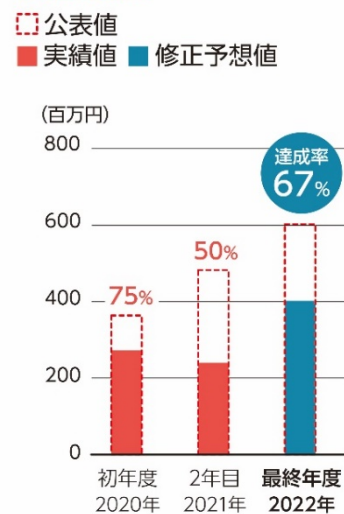
売上高



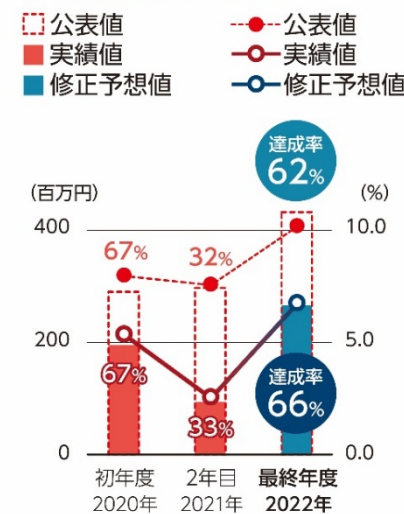
営業利益



経常利益



当期純利益・ROE



摘要	2020年10月期 (実績)	2021年10月期 (実績)	2022年10月期 (当初計画数値)	2022年10月期 (修正予想値)
売上高	9,022	9,425	11,580	11,266
営業利益	326	229	617	412
経常利益	271	238	598	399
当期純利益	194	93	429	264

中期経営計画「チャレンジ110（イチイチゼロ）」の仕上げとなる2022年10月期は、2021年12月の公表時点では厳しい見通しを計画しているものの、その後明るい材料も多く出てきておりますので、2019年12月に公表いたしました当初の計画数値である売上高115.80億円、営業利益6.17億円、経常利益5.98億円、当期純利益4.29億円の達成のために、全社一丸となって収益の確保に取り組んでいく所存です。

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から経営者の判断に基づいて作成されており、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することはお控え下さいますようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

IR担当
窓口



株式会社オービス 経理部 新谷和弘

- TEL 084-934-2621 FAX 084-934-2624
- E-MAIL : ir@orvis.co.jp
- URL : <http://www.orvis.co.jp>